

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471903136
法人名	有限会社ライム倶楽部山下
事業所名	グループホーム来夢の家
訪問調査日	平成 19年 8月 20日
評価確定日	平成 19年 9月 19日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 8 月 28 日

【評価実施概要】

事業所番号	1471903136		
法人名	有限会社 ライム倶楽部山下		
事業所名	グループホーム 来夢の家		
所在地	神奈川県横須賀市逸見町1丁目38番地 (電話) 046-828-6371		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月19日

【情報提供票より】(平成20年8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 7 人, 非常勤 14 人, 常勤換算 11.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 単独型		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	40,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(400,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,400円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ウェルシティ若松クリニック、汐入メンタルクリニック、聖ヨセフ病院、大沢医院、湘南グリーンクリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は、横須賀駅に近い閑静な住宅地にある木造専用住宅でゆったりとした造りである。 ・管理者を中心に職員が参加して、「慈愛」、「尊敬」、「受容」の心と地域との交流を大切に、事業所独自の理念を創りあげ、その実現に努めている。 ・職員全員でターミナルケアに取り組んでいる。本人、家族の強い希望もあり、事業所の協力医の全面的な支援と職員全員の賛同を得て介護をしている。これまで利用者3人を看取り、家族からも高い評価を得ている。 ・利用者は町内会と老人会の会員になっており、夏祭りをはじめ、町内の行事へは積極的に参加している。地域の自治会、特に近隣との交流に力を入れて取り組んでいる。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部評価の受審は、今回が初めてのため改善課題はないが、3年目に入り職員に精神的ゆとりがでてきたので地域とのかかわりを大切に取り組んできた。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者と計画作成担当で自己評価の原案を作成し、課題と思われる箇所にチェックを入れ、職員に回覧して意見を反映した。 ・外部評価を機会に、会議で改めてサービスの質に付いて話し合い現状を再確認した。
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は3か月毎に開催し、事前資料として行事内容や職員の現状、利用者の状況(疾病、ケガ)等の情報を提示して、出席者間で忌憚のない意見交換を行なっている。 ・会議の後、職員に議事録を回覧し、更にミーティングで内容を共有して、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日多数の家族が訪れており、特に週末は多い。来訪が頻繁なので家族とのコミュニケーションは良く、何でも話し合える関係にある。話し合いの中から家族の意見や要望を把握している。 ・これまで苦情は出ていない。
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を通して地域との連携を深めている。 ・利用者が町内会、老人会の会員になっており、夏祭りなどの町内の行事へは、積極的に参加している。 ・ホーム主催の花火大会(8月末)には、近隣の住民にも声をかけて実施の予定である。
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・開設当初、管理者を中心に職員が参加して①「慈愛」、「尊敬」、「受容」の心を大切にし、②地域との交流を大切に事業所独自の理念をつくり、玄関、事務室の見やすい場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝夕の申し送りや毎月の会議、日常の業務の中で、理念に添った対応となっているかを振り返り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・運営推進会議を通して、地域との連携を深めている。 ・利用者は町内会、老人会に加入して、夏祭りをはじめ、町内の行事へは積極的に参加している。 ・事業所主催の花火大会(8月末)には、近隣の住民にも声をかけて実施の予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価票は、管理者と計画作成担当で原案を作成し、課題と思われる箇所にチェックを入れて職員に回覧し、意見を聴取した。 ・会議等で話し合うことで、現状を再認識し意識の向上を図ることができた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、3か月に1回開催し、事前資料として行事、職員の活動状況、利用者の状況(疾病、ケガ)等詳しい情報を提示、出席者間の忌憚のない意見交換を行っている。(議事録で確認) ・職員には議事録を回覧し、ミーティング時に全員に徹底して、会議の結果をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の他に、年2回地域会議を開催しており、そこで地区の他施設と共に市の担当者の出席を得て、サービスの質の向上について協議している。 ・日常、市の担当者と話し合う機会が多いとは言えない。 		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、多数の家族の来訪があり、週末は更に多い。 ・家族の来訪時には、担当者が利用者の現状を報告し、行事などの情報を伝えている。 ・金銭管理の結果は、個別に手紙を添えて報告している。 		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族とは何でも言える関係を築いており、話し合いの中から家族の意向を把握している。 ・苦情受付窓口は、重要事項説明書に明記し、玄関にも掲示している。 		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の異動は少ないが、異動又は退職の場合は猶予期間を設け、新任と平行して担当し、利用者に不安が生じないように配慮している。 ・職員が代わる場合は全員でフォローし、異動を感じさせないように配慮している。 		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・新任職員には、管理者が理念及び基本的な施設の姿勢を教育した後、管理者、先輩によるOJTで指導している。 ・現任職員は、外部研修の情報を適宜選択し、常勤、非常勤の別なく全体で年6～7回研修に参加し、結果は研修記録にまとめ、また、ミーティングで報告し共有している。 		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2～3回開催する市の連絡協議会に参加している。 ・職員は、そこで企画される同業者間の相互訪問研修に参加して、他施設の状況から学び、自施設のサービスの質の向上、改善に活かしている。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者に徐々に馴染んでもらうため、申込み⇒面談⇒短時間の利用⇒お試し泊り⇒仮入所のステップを経て本入所をしている。 ・本人がストレスや不安を感じることなく自然に入所できることに重点をおいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の自由を尊重し自立を支援する姿勢を基本に、お互いに家族であることを利用者と共有している。 ・職員が率先し、利用者が手伝うことから始まり、利用者のできることは、自発的に分担するようになった。 ・職員は利用者から、何かと教えてもらいながら、支えあう関係を築き家事をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・家族的な雰囲気や、日常生活の中で支えあい、何でも遠慮なく言える関係を築いている。 ・日常の会話の中から、また意思疎通の困難な方には、動作やしぐさから、希望や意向を把握することに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・利用者一人に2人の担当スタッフを置き、その時々情報の収集、伝達が漏れなく行われるよう工夫している。 ・状況に応じて家族カンファレンスを実施し、家族を含めたチームで介護計画を作成するなど、利用者本位の姿勢で対応している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・6か月毎に見直しを行っているが、安定した状況にある利用者の場合は、カンファレンスの実施や書類整理が遅れることがある。 ・介護計画は前項で記載した通り、家族カンファレンスを開催して、現状に即した見直しを行なっている。	○	・カンファレンスの実施や介護計画の見直し、書類の整理については、月間計画をたてるなど、期限内に対応できるような改善が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・本人、家族の状況に応じて、通院の送迎や図書館に行くなど、個人的な外出にも柔軟に対応している。 ・近隣の高齢者が、日中気楽に事業所を訪れ、利用者と交流できるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医の診療が受けられるよう、通院の支援をしている。 ・事業所が契約している医師が常時往診して、利用者の健康管理を行っており、利用者及び家族の信頼を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・終末期に対する対応指針を定め、家族、医師、看護師、を交え話し合い、職員全員で取り組む体制ができている。 ・状態の変化に即応できるよう、契約医とかかりつけ医の全面的な協力をえて家族とのコミュニケーションを密に対応している。(これまで3例の看取りを経験している。)		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員からは、採用時に誓約書を取り徹底している。 ・毎日の申し送りや会議で、利用者の誇りやプライバシーを大切にすることを徹底している。 ・調査当日、利用者へ接する態度に、プライバシーを損ねるような様子は見られなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本的な一日の流れはあるが、職員は利用者の意思・自由を尊重し、一人ひとりのペースに合わせて支援している。 ・各人の個性、特技、趣味身体状況を把握しゆったりと、その人らしい暮らしができるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な利用者と一緒に食材の調達に行き、利用者の好みを公平に取り入れるなど、利用者と共に食事を作る姿勢を築いている。 ・職員全員が、利用者と同じ食事を一緒に食べている。 ・できる利用者は準備、後片付けを積極的に行っていた。(昼食時の観察) 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・基本の入浴日は設定しているが、それに拘らず利用者の希望に合わせて対応している。 ・入浴を好まない利用者に対しては、日時に関係なくその気になったとき入れる様に工夫している。 		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・得意分野で一人ひとりの力が発揮できるよう、できそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝え生き甲斐を喚起している。 ・自由時間には趣味を活かして過ごせるよう工夫し、生活に変化を持たせ、気晴らしに心掛けている。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況を見て、週に2回買い物に行っている。また、毎日1回は散歩に出かけ、季節感を感じ気晴らしができるようにしている。 ・季節に応じた外出行事を取り入れて、心身の活性化に繋がるよう支援している。 		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・安全上、玄関は施錠扉になっているが、外に出たい人には閉塞感を与えないよう配慮している。 ・居室には鍵をかけていない。内部からは施錠できるが、状況に応じて職員が外から開けられるようにしている。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、年に2回の避難訓練を実施している。内1回は、消防署の指導の元地域の協力を得て火災対応の訓練を行っている。 ・ホーム横の駐車場裏に、備蓄庫に非常食などの防災用備品を保管している。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食量を毎日チェック表に記録し、各人の状況を職員全員で把握し、日常の支援に活かしている。 ・事業所の協力医による日常的な健康チェックにより、協力医と相談しながら栄養バランスを確認している。 ・定期的な健康診断を行なっている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングには、ソファとテレビ、食卓兼用のテーブル2台があり、いつでも自分の好きな場所で寛げる空間となっている。 ・壁には、お雛さまの他行事ごとの写真を貼り、季節感、生活感が感じられるように工夫している。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、利用者及び家族の好み、これまでの馴染みのものを設置している。ベッドであったり、畳に布団であったり、仏壇があったり、各人各様の生活スタイルに合わせた居室になっている。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム来夢の家
(ユニット名)	壱番館
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市西逸見町1丁目38番地
記入者名 (管理者)	小里 文乃
記入日	平成 20 年 8 月 2 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	来夢の家独自の理念を作成し、分かりやすい場所に掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活において、理念が反映されているか、月1回のミーティングで話定期的にし合いを行い、意識づけをしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご入居者様、方々のありのままを受け止め、その人らしく生活出来る様なホームを目指し、ご家族や地域の方々に理解して頂けるよう、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所の方々と挨拶を心がけ、町内活動に積極的に参加させて頂くよう努めている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内イベントに積極的に参加させて頂くと共に、本年度よりホームを拠点とし、町内の皆様に参加して頂くイベント、花火大会を開催予定。		

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者・代表職員が中心となり、1回/月のミーティングや勉強会を開催。その中で、グループホームの地域での役割について、話し合うようにしている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者・代表職員が中心となり、1回/月のミーティングや勉強会を開催。その中で、自己評価の内容について検討するようにしている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、事業所からの報告と共に、質問・意見・要望等に応じ、それを職員全員に周知する機会を設けている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現状としては、運営推進会議以外で担当者と会う機会を設けていない。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加をし、その内容を職員全員に周知させる機会を設けている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修に参加をし、それをふまえて、1回/月のミーティングや勉強会で職員に周知する機会をつくと共に、ホーム全体で虐待防止に努めている。</p>		

来夢の家(吉番館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、必要事項の説明をしっかりと行い、ご家族等としっかりコミュニケーションをとるよう心がけている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を明確化し、早期対応及び解決を図ると共に、管理者より職員へ指導を徹底している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>各ユニット毎に担当者を決め、管理者と共に担当者が責任を持ち、ご家族等に対し、報告を行なっている。金銭等については、1回/月、書面にて報告行なっている。活動報告についても、1回/3か月の広報誌にて行なっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を明確化し、早期対応及び解決を図り、管理者より職員へ指導を徹底している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1回/月のミーティングをふまえ、運営者と管理者とで話し合う機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な職員は配置できている。また、緊急時には管理者への迅速な報告を徹底するとともに、柔軟な対応をとっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ご入居者様にとって、馴染みの職員が継続的に支援できるよう、心がけている。</p>	

来夢の家(吉番館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県や市による勉強会や研修等に、段階に応じた職員を参加させるよう心がけている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会を活用し、他の施設との交流を持つよう心がけている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者が、常に職員の意見や疑問を聴ける場を設けており、職員のストレス状況の把握・改善に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得により、個々のレベルアップを図れるよう促し、行なっている。また、資格手当をつけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>十分にコミュニケーションをとり、不安なく、ご入居いただけるよう、また入居後も安心して、ホーム生活を送っていただくことができるよう、努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>十分にコミュニケーションをとり、不安なく、ご入居いただけるよう、また入居後も安心して、ホーム生活を送っていただくことができるよう、努力している。</p>	

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、お手伝い出来る部分と出来ない部分を分析し、他サービスの利用方法等をお話しするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試して、短時間お散歩がてらホームに遊びに来て頂くことから始め、お試しのお泊り・お試しの入居を経て、本入居となるよう、ご入居様がストレスを感じることなく、当ホームに慣れて頂く事ができるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご入居者様の出来ることを見極め、極力一緒に行なえるよう、また楽しみながら、笑いながら、行なえるよう、心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	町内イベントにご家族も一緒に参加して頂いたり、クリスマス会やお誕生日会の際にはご家族等にも参加して頂けるよう、お声かけをし、同じ時間を共有する事で、他のご入居者や職員のことを理解して頂けるよう、努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご面会時、お時間の許す範囲で、家族団らんの時間を作れるよう、心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の生活歴等を最大限考慮し、大切な思い出とともに誇り高く生活して頂けるようなケアに努めている。また、ご家族等の協力も得ながら、知人・友人との交流も途切れないよう、配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が仲介することにより、ご入居者様同士がより良い関係を築くことができるよう、努めている。また、集団生活の中で孤立してしまうことのないよう、配慮している。		

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで退去された方は他施設ご入居または死亡のため、継続的な関わりを必要とされる方が居られなかった。	○	今後、継続的な関わりを必要とされる方がでた場合には、より良い関係を築いていけるよう、努力していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動や表情から本人の意志を汲み取り、その人らしさを尊重したケアを心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等と小まめなコミュニケーションを図り、これまでの生活歴等を把握し、職員全員が共有することができるよう、努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の一人ひとりの状況を把握し、出来る事柄には積極的に参加して頂けるよう、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じて、ご家族等に参加して頂き、家族カンファレンスを開催。ご家族等の要望等をしっかりと入れたプランを作成するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プラン作成が出来る職員が限られており、カンファレンスの実施やプラン作成が間に合わないことがある。そのため、期間が大幅にずれってしまうことも多い。	○	ホームで定めた期間でプランの見直しを行なうと共に、緊急性を要する場合には緊急カンファレンスを開催できるように努めていきたい。また、プラン作成について、積極的に学んでいく機会を設けていきたい。

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入を小まめに行なうよう心がけ、朝夕の申し送り際には、しっかりと一人ひとりの状況を伝達できるよう、努めている。また、全職員が情報の共有をするため、申し送りノートを活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族やご入居者様の要望に対しては、可能な限り対応できるよう、人員配置をはじめ、柔軟な支援を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着を心がけ、たくさんの地域の方々にご協力頂けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、他のサービスを活用することなく、経過している。必要に応じての検討は常に行い、他のサービス利用も視野にいれて対応している。	○	今後、必要性に応じて他のサービス利用も積極的に取入れていきたいと考えている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて地域包括支援センターと連絡・相談を行なっている。	○	今後も地域包括支援センターとの連携をとっていきたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族等・ご入居者様が納得した医療を受けることができるよう、ホームドクター・管理者と共に、しっかりと話し合っ決めて頂くことができるよう、心がけている。		

来夢の家(吉番館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご入居者様一人ひとりが、気持ちよく安心してホーム生活を送ることが出来るよう、個人情報の管理は徹底している。また、写真等掲載する場合には、ご家族の了解を得るよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己判断・自己決定が出来るよう、本人の話をしっかりと傾聴するよう、努めている。職員の都合で判断しないよう、注意している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様一人ひとりの生活歴に合わせ、また一人ひとりのペースを大切にするよう、日々心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員だけではなく、ご家族の協力も得ながら、その人らしい生活ができるよう、また外出する機会を多く設けることが出来るよう、支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事への参加が困難であっても、その人に出来ることを危険のない範囲でまた、強制的にならない程度に参加して頂いている。また、職員は必ずご入居者様と一緒に食事を摂っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの好みを把握し、楽しく美味しく召し上がっていただけるよう、努めている。また、その人の状況に合わせて、食事形態等を工夫する等、行なっている。現在のところ、お酒やタバコといった嗜好品のある方はいない。	

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	行きたい時にトイレに行けるよう、その人のリズムに合わせた支援を心がけている。また、排泄パターンを把握する為、排泄表を個人別に作成している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全に配慮し、可能な限りいつでも入浴して頂けるような体制を整えるように努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して眠って頂けるような環境作りに努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご入居者様の得意・不得意を把握し、出来る限り、得意な事柄を活かして頂けるようなホーム生活を送って頂くことができるよう、支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族よりお小遣いとして、いづらかお預かりさせて頂いている。その中で日々本人にとって必要な物を出来る限り、近所へ買物に行く等、心がけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特定の職員が出勤している時に限られてしまうことが多い。	○	全職員が対応することができるよう、職員のパワーアップを目指していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	徒歩や車でドライブがてら外出する機会を定期的に設けるよう、工夫している。また、ご家族等の協力も得ながら、外に出る機会を設けている。		

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族向けにハガキを送らせていただいている。また、ご自分でメッセージが書ける方には、一言でも書いて頂けるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間いつでもお越し頂けるよう対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に留意しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束防止のため、申し送り時やミーティングの際に定期的に話し合いを行なうよう心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全のため、出入りに鍵の付いた扉を設けているが、外に出たい時には出来る限り、要望を叶えられるよう、努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、小まめにご入居様がどこで何をしているのかを把握するよう、努めている。また、安全に生活して頂くことが出来るよう、留意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取扱注意の必要な物品に関しては、ご入居者様の認知度に応じ、対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	実際に起きた事故を定期的に再検討し、同じ事故を繰り返すことのないよう、努めている。		

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	月1回のミーティング等で、全職員が対応できるよう、説明等行なっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各ユニットの目につく所に防災マニュアルを掲示。年に2回(春と秋)、防災訓練を実施。秋には消防署や地域の方々にご協力頂き、大規模な防災訓練を実施予定。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族に対して、必要に応じて、ご入居者様の現状及びこれから起こりうるであろうリスク等の説明をさせて頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時や入浴前の定期的なバイタル測定を実施し、異常が見られた際には報告・相談を迅速に行なうよう、心がけている。また、個人記録への細やかな記入も行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様一人ひとりに対し、現在処方されている薬の名前・用法・副作用等について分かるよう個人別にファイリングし、保管している。また、臨時薬や追加薬及び薬の変更等については、申送りを行なう他、申送りノートへ記入し、全職員が目を通せるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日朝夕必ず、排便状況の確認を行なうよう努めている。また、出来る限り、個人にあった運動を行うよう、心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、必ず歯磨き等の口腔ケア行なって頂けるよう、声かけや介助を行なっている。		

来夢の家(吉番館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い、各個人毎にまとめ、1日の摂取量が一目で分かるようにしてある。また、排尿量等も観察を行い、脱水症状等の防止に努めている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の拭き掃除の際には、希釈の塩素系漂白剤等を使用し、季節に関係なく、習慣化した使用を心がけている。また、職員・利用者共に外出後には必ず、手洗い・うがいを行っている。食事作りや食事の際にも、しっかり手洗い・消毒を行なうよう配慮している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に塩素系漂白剤等により、消毒するよう心がけると共に、新鮮な食材を必ず提供するよう、徹底管理行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	毎朝、必ず掃き掃除を行い、清潔を保つよう心がけている。また、玄関に季節の飾り付け等を行い、ご入居者様・ご家族等に季節を感じて頂く事ができるよう、工夫している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに外出時の写真を掲示したり、季節毎の飾りつけを行なう等、暖かい雰囲気作りに努めている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファを設置。TVを観ながらくつろいだり、新聞を読んだり、皆で歌を歌ったりできるような空間作りを心がけている。		

来夢の家(吉番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、ご入居様が好きな物を置いて頂く事ができるよう、配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	なるべく閉め切った空間をつくることのないよう、エアコンはご入居様に合わせた温度設定にするよう、心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ快適に生活を送って頂くことができるよう、配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご入居様一人ひとりの認知度にあわせ、段階を踏んで説明等を行い、混乱を防ぐようにしている。その人らしい生活を送って頂くことができるよう、支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じた花等をベランダで、職員と一緒に育てたり、観賞したりする時間を作っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

来夢の家(壱番館)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出する機会を出来るだけ、多く設けることができるように努めている。また、季節を感じて、楽しんで頂けるような工夫を心がけている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム来夢の家
(ユニット名)	貳番館
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横須賀市西逸見町1丁目38番地
記入者名 (管理者)	小里 文乃
記入日	平成 20 年 8 月 2 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	来夢の家独自の理念を作成し分かりやすい場所に掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	日々の生活において理念が反映されているか、1回/月のミーティングにて定期的に話し合いを行い、意識付けを行っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご入居者様、方々のありのままを受け止め、その人らしく生活が出来るようなホームを目指し、ご家族や地域の方々に理解して頂けるよう、取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	ご近所の方々と挨拶を心がけ、町内活動に積極的に参加させて頂くよう努めている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内イベントに積極的に参加させて頂くと共に、本年度よりホームを拠点とし町内の皆様に参加して頂くイベント、花火大会を開催予定。	

来夢の家(弐番館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者・代表職員が中心となり、1回/月ミーティングや勉強会を開催。その中で、グループホームの地域での役割について、話し合うようにしている。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・代表職員が中心となり、1回/月ミーティングや勉強会を開催。その中で自己評価の内容について検討するようにしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの報告と共に質問・意見・要望等に応じ、それを職員全員に周知させる機会を設けている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状としては、運営推進会議以外で担当者と会う機会を設けていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加をし、その内容を職員全員に周知させる機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加をし、それをふまえて、1回/月のミーティングや勉強会で職員に周知する機会をつくと共に、ホーム全体で虐待防止に努めている。		

来夢の家(弐番館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、必要事項の説明をしっかりと行い、ご家族としっかりコミュニケーションをとるよう心がけている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を明確化し、早期対応及び解決をはかると共に、管理者より職員への指導を徹底している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>各フロアごとに担当者を決め、管理者と共に担当者が責任を持ちご家族に対し報告等行っている。金銭等については1回/月、書面にて報告行っている。活動報告についても、1回/3ヶ月書面にて報告行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口を明確化し、早期対応及び解決をはかると共に、管理者より職員への指導を徹底している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>1回/月のミーティングをふまえ、運営者と管理者とで話し合う機会を設けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な人員は配置出来ている。又、緊急時には管理者への報告を徹底すると共に、柔軟な対応をとっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ご入居者様にとって馴染みの職員が継続的に支援出来るよう心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>県や市による勉強会や研修等に、段階に応じた職員を参加させるよう心がけている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会を活用し、他の施設との交流を持つよう心がけている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者が、常に職員の意見や疑問を聴ける場を設けており、職員のストレス状況の把握・改善に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格取得により、個々のレベルアップをはかれるよう促し行っている。又、資格手当をつけている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>十分にコミュニケーションをとり、不安無くご入居頂けるよう、又、ご入居されてからも安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>十分にコミュニケーションをとり、不安無くご入居頂けるよう、又、ご入居されてからも安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう努力している。</p>	

来夢の家(弐番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、お手伝いできる部分と出来ない部分を分析し、他サービスの利用方法等をお話するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試しで、短時間お散歩がてらホームに遊びに来て頂くことから始め、お試しのお泊り・お試しの入居を経て、本入居となるよう、ご入居様がストレスを感じる事無く、当ホームに慣れて頂く事が出来るよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来るだけ、家事等を職員とご入居者様と一緒に行うようにし楽しみながら、笑いながら行えるよう心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	町内イベントにご家族様も一緒に参加して頂いたり、クリスマス会やお誕生日会の際にはご家族も一緒にご参加頂き、同じ時間を共有する事で、他ご入居者様のことや職員のことを理解して頂ける様努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご面会時、お時間があるようであれば一緒に食事を取って頂いたり、おやつを一緒に食べて頂き、家族団らんの時間をつくるよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居様が普段買い物されていた場所で、ご入居者様のお買い物をしたりするよう心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が仲介することによりご入居者様同士がうまく関係を築くことが出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで退居された方は、他施設ご入居又は死亡の為、継続的な関わりを必要とされるかたは居られなかった。	○	継続的な関わりを必要とされる方が出た場合には、より良い関係を築いて良くことが出来るよう努力していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべくおうちで生活されているような感覚でいて頂けるよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とこまめにコミュニケーションをとり、これまでの生活歴等把握し職員全員が共有することが出来るよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日のお一人お一人の状況に応じ出来る事柄には積極的に参加して頂ける様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じご家族にご参加頂き、家族カンファレンスを開催。ご家族の要望等をしっかりと入れたプランを作成するようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プラン作成出来る職員に限られおり、カンファレンスの実施やプラン作成が間に合わず、期間が大幅にずれてしまうことが多い。	○	ホームで定めた期間でプランの見直しを行うと共に緊急性のある場合には緊急カンファレンスが開催出来るように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	こまめに個人記録へ記入を心がけ、朝夕の申し送りの際にしかり、お一人お一人に対し申し送るよう心がけている。又、全職員情報共有する為、申し送りノートを活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族・ご入居者様の要望に対しては、対応出来るかぎり対応出来るよう人員配置に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域密着を心がけ、たくさんの地域の方々にご協力頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、他サービスを活用することなく経過している。必要に応じての検討は常に行い、他サービス利用も視野に入れ対応している。	○	今後、必要に応じてサービス利用も積極的に取り入れて行きたいと考えている。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて、地域包括支援センターと連絡・相談を行っている。	○	今後も、包括支援センターと連携をとっていきたいと考えている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族・ご入居者様が、きちんと納得し医療を受けることが出来るよう、ホームDr・管理者と共にしっかりと話し合っ決めて頂くことが出来るよう、心がけている。		

来夢の家(弐番館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご入居者様一人一人が、気持ちよく安心してホーム生活を送ることが出来るよう個人情報の管理は徹底し行っている。又写真等掲示する場合はご家族様へ了解を取るよう心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己判断・自己決定が出来るようマンツーマンでお話をさせて頂く等、対応に注意している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様お一人お一人の生活暦に合せ、お一人お一人のペースを大切にするよう心がけている。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員だけではなくご家族にもご協力頂きおしゃれをしたり外出をしたりする機会を多く設けることが出来るよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけで作るのではなく、なるべく多くの方に参加して頂くことが出来るよう工夫するようにしている。又小さな事だけでも、ご自分で決定することが出来るよう、選択しを設けるように心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	2回/週のお買い物に参加して頂き、一緒にお買い物をして頂くようにし、なるべく嗜好品を取り入れたメニューづくりを心がけている。	

来夢の家(弐番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	出来る限りトイレで排泄して頂けるよう、排泄表を各個人で作成。記録を取ることで一人お一人の排泄パターンの把握に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全に配慮しながら、出来る限り24hいつでも入浴して頂ける体制を整えている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご入居者様お一人お一人に合せ、安心して眠って頂けるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご入居者様の得意・不得意を把握し、なるべく得意な事柄を生かして頂ける様なホーム生活を送って頂くことが出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族よりお小遣いとして、いづらかお預かりさせて頂き、出来る限り近所へお買い物へ行く際には、お金を普段持っておられない方でも、ご自分の物はご自分で払って頂くことが出来るよう、心がけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特定の職員が出勤している時に限られてしまうことが多い。	○	全職員が対応することが出来るよう、職員のパワーアップを目指して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	徒歩や、車でドライブがてら外出する機会を定期的に設けるよう、工夫している。お誕生日ケーキを当日皆で購入しに行くようにする等、たくさんの方に参加して頂けるよう工夫している。		

来夢の家(弐番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談し個人でケータイ電話を持って頂いたり、定期的にご家族向けに葉書を送らせて頂き、各個人で一言づつでもメッセージを書いて頂いたりするようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24hいつでもお来し頂ける様対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に留意しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又身体拘束防止の為、申し送り時やミーティングの際に定期的に話し合い行うよう心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全の為、出入り口に鍵の付いた扉は設けているが、日中はなるべく扉を開放するよう心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、こまめにご入居者様がどこで何をしているかを把握。安全に生活して頂くことが出来るよう留意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取扱注意の必要な物品に関しては、ご入居者様の認知度に応じ、対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	実際に起きた事故を定期的に再検討行い、同じ事故を繰り返すことの無いよう検討するよう努めている。		

来夢の家(弐番館)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1回/月のミーティングや勉強会の際等で、全員が対応出来るよう講習会等開くよう努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各フロアの目につく所に防災マニュアルを掲示。2回/年、春と秋に防災訓練を実施。秋には消防署や地域の方々にご協力頂き、大規模で防災訓練を実施予定。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	カンファレンス実施の際等に、ご家族に対し、定期的にご入居者様の現状、これから起こりうるであろうリスク等に対し、ご説明させて頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	起床時や入浴前の定期的なV. S測定を実施し、異常見られた際には朝夕の申し送りの際報告行う。個人記録への細やかな記入も行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様お一人お一人に対し現在処方されているお薬の名前や用法・副作用等について記載された紙を個人別にファイリングし保管。全職員が目を通すことが可能な状態にしてある。又、新しく処方されたお薬に対しては、申し送りノートに名前、用法・用量等細かく記入するよう心がけている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日朝夕必ず、排便状況の確認を行うよう努めている。又、出来る限り、手の空いている職員が歩行訓練や体操等の個別リハビリ各個人にあった運動を行って頂けるよう、心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず歯磨き等の口腔ケア行って頂けるよう、促しや一部介助行っている。		

来夢の家(弐番館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

来夢の家(弐番館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、ご入居者様がお好きな物を置いて頂くことが出来るよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	なるべく閉め切った空間をつくることが無いよう、エアコンはご入居者様に合わせた温度に設定するよう、心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ快適に自立した生活を送って頂くことが出来るよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご入居者様お一人お一人の認知度に合せ段階を踏んで説明等行い混乱等防いでいる。そのひとらしい生活を送って頂くことが出来るよう支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節に応じベランダにてティータイム等を開催。日常的に安全な範囲で、出入り自由にし対応している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

来夢の家(貳番館)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日の食事作りの際、職員のみで作るのではなく、必ずご入居者様と笑いながら楽しんで作るよう心がけている。